

横井小楠 —その業績と生涯—



今年、わたしたちの住む熊本に生まれた横井小楠の生誕200年にあたります。小楠は、幕末(江戸時代の末期)に日本の進む道を示した偉大な思想家の一人です。交流があった勝海舟^{かつ かいしゆう}は、小楠を次のように言っています。「おれは今迄に天下で恐ろしいものを二人見た。それは横井小楠^{よこい しょうなん}と西郷南洲^{さいごう なんしゅう}(隆盛)とだ。横井は西洋の事も別に澤山は知らず、おれが教へてやった位だが、その思想の高調子な事は、おれなどとはとても梯子^{はしご}を掛けても及ばぬと思った」(『氷川清話』より)

海舟にそのように言わせた、横井小楠はどんな人物だったのでしょうか。

1 小楠誕生

横井小楠は、文化6年(1809)8月13日、家禄^{かろく}*150石の肥後藩士^{はんし}であった横井大平時直^{たいへいときなお}の二男として熊本城下内坪井で生まれました。母、兄、弟の5人家族でした。本名は時存^{ときあり}ですが、ふだんは平四郎^{へいしろう}と呼ばれていました。

横井家の先祖は鎌倉幕府^{しゅげん}の執権^{しゅうけん}(将軍の補佐)北条氏^{ほうじょう}とされています。小楠の肖像画の袷には横井家の「丸に三ツ鱗」の紋が付いていますが、これは北条氏の家紋と同じです。

小楠が生まれた内坪井(現在の内坪井町)は、熊本城の北東の方角にあります。今は、その東側を坪井川が流れていますが、その当時は、かぎ形をした濠^{ぼり}(現在は坪井川)が所々にあって、川(もとの坪井川)が西側を蛇行している、中級家臣^{かじん}の多く住む武家屋敷でした。生家は町の中心部(現在の熊本中央高校付近)にありました。

ところで、小楠は畏齋^{いさい}・小楠^{しょうざん}・沼山^{ぬまやま}という3つの号(本名以外の名)を持っています。最も知られている号「小楠」は、南北朝時代に後醍醐天皇^{ごてんのかみ}に仕えて足利尊氏^{あしかが たかうじ}と戦った楠木正成^{くすのき まさしげ}の子ども正行^{まさつら}(小楠公)を慕って付けられたとされています。

さて、当時の政治情勢はどうだったのでしょうか。将軍は第11代徳川家斉^{とくがわ いえなり}、肥後藩主は第10代細川斉茲^{ほそかわ なりしげ}でした。江戸幕府も200年を経過して、幕府の統制力も弱くなり、肥後藩も財政的に厳しい状況

でした。一方、日本近海にはロシア船やイギリス船がひんぱんに出没するようになり、外国との関係も問題になる時期でもありました。

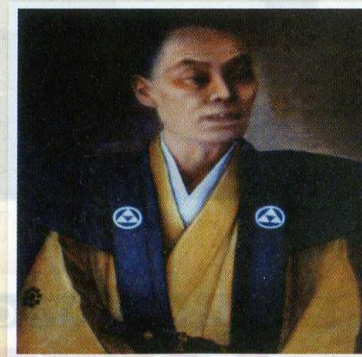
※勝海舟(1823~99)...

幕臣(旗本)。1860年、咸臨丸を指揮して日本人初の太平洋横断に成功。

また1868年には西郷隆盛と会見して江戸城無血開城を実現。

※家禄...

家に代々伝わる年俸(給料)。石高で表わした。



▲横井小楠肖像画



▲小楠生誕地(熊本中央高校正門)

このコーナーは、菅 秀隆さん(元横井小楠記念館長)が執筆しています。